

そうだったの!?

言葉や国語について考えるこの欄は、文化庁の「国語に関する世論調査」などを参考にしている。

ほんのさわり

テレビやラジオの番組で、歌もこなすタレントをスタジオに招いて、リクエストする場面がある。「ほんのさわりだけお願いします」。さわりを歌い始めの、あるいは話の最初の部分、と解釈している人が多いようだ。ここには相手に負担にならないようにとの配慮もうかがえる。

文化庁の調査では、さわりを話などの最初の部分と考える人が半数

を超えた(55%)というデータがある。

さわりは、最大の聞かせどころ、見どころを意味する。語源は江戸時代に竹本義太夫が創始した浄瑠璃の流派の一つ、義太夫節だ。

誤用されるようになったのを文化庁はこう解説している。「さわるとい言葉の響きが、物事に軽く触れる、表面的に触れるというような意味で捉えられやすいことなどが

重なって、話などの最初の部分のことと連想されてしまうのかもしれませんが」

演歌好きの国語学者にカラオケで「先生、さわりだけ歌ってください」とリクエストしたら、先生は本格的に歌い始めた。

雰囲気が変わったのに気付いた両者が、そろって首をかしげる。

言葉って難しい。

学生記者になりませんか?

『HAKUMON Chuo』は中大生が取材・編集する大学広報誌です。
現在、学部在学生在を対象に学生記者を募集しています。

- 元新聞記者のプロや先輩の学生記者に、取材方法・原稿の書き方をはじめ添削指導を受けることができます。将来どんなキャリアをめざすにも文章力が重要です!
- 取材を通して、さまざまな人に出会うことができます。出会いの数ほど思い出ができることでしょう。
- 記者活動を通してコミュニケーション能力など「社会人基礎力」を身につけることができます。



学生記者の取材現場、左は駅伝メンバーの永井選手

お申し込み・お問い合わせ 中央大学広報室『HAKUMON Chuo』 編集担当：久保田茂信
Phone：042-674-2048(直通)
E-mail：hc@tamajs.chuo-u.ac.jp